

[English follows Japanese]

モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団ニュースレター

2021年9月30日

第25期マンズフィールド・フェローシップ・プログラム：政府研修開始（[プログラム詳細](#)）

第25期マンズフィールドフェローが、一年の延期を経て9月6日から各受入機関配属先で研修を開始した。

来年6月までのフェローの配属先は[こちら](#)

また人事院によるプログラム紹介はこちらを参照 [マンズフィールド研修](#)（人事院 HP）

マンズフィールド-PhRMA 研究者プログラム：第5回オンラインセミナー開催

9月9日、マンズフィールド財団は、米国研究製薬工業協会（PhRMA）の支援を受けて実施している「マンズフィールド-PhRMA 研究者プログラム」の一環として、同窓スカラーを対象としたオンラインセミナーを開催した。第5回目となる本セミナーでは、ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院医療・行動・社会学部長の[ラジブ・リマール教授](#)をお招きして、パンデミック時における効果的な対応について講義いただき、新型コロナウイルス感染症が蔓延する現状での有効の示唆をいただいた。

本プログラムの詳細は[こちら](#)から。

第26期マンズフィールド・フェローシップ・プログラム：フェロー向けウェビナー・シリーズ開始

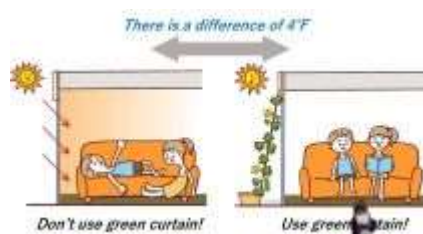
マンズフィールド財団 DC 本部は、9月13日、来年夏に来日予定の第26期マンズフィールドフェローのためのウェビナーを実施した。第一回目はコロンビア大学政治学部名誉教授でマンズフィールド財団理事会会長[ジェラルド・カーティス教授](#)が、自民党の総裁選や衆議院選挙などの時事を取り上げながら日本政治制度について語った。

カケハシ・プロジェクト：日米の高校生による気候変動をテーマとしたオンライン交流を実施

マンズフィールド財団が2016年より外務省より運営を委託されている[対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」\(米国\)](#)の実施機関である[一般財団法人国際協力センター\(JICE\)](#)は、9月13日、日米の高校生による気候変動や環境をテーマに、両国における高校生たちが持つ環境問題への意識やそれぞれの活動を学び合い、国境を越えた国際協力の重要性について考えること目的としたオンライン交流会を実施した。日本の東邦高校（愛知県）の生徒たちがエコ・アクションについて発表し、また米国のヘレナ高校（モンタナ州）の生徒たちがグリーン・グループの活動を紹介した後、質疑応答では「気候変動の影響に対して、1日に1つ実行していること」や「学校で行うスポーツ」等について和やかに質問し合った。なお、新型コロナウイルス感染症の流行終結後に、ヘレナ高校の生徒たちによる日本訪問が計画されている。モンタナ州は、故[マイク・マンズフィールド大使](#)の故郷であり、マンズフィールド財団は今回モンタナ州のヘレナ高校がカケハシ・プロ

プロジェクトに参加することを歓迎している。

(参考) 外務省 HP: [北米地域との交流 カケハシ・プロジェクト](#)



その他 財団関連ニュース

第 26 期マンスフィールドフェローのキャサリン・クック氏の紹介記事が NASA の HP で掲載

来年夏に来日予定の第 26 期マンスフィールドフェローの一人で、米国航空宇宙局 (NASA) 所属のキャサリン・クック氏が NASA のウェブページで紹介された。クック氏は運用分析官として NASA の深宇宙探査ゲートウェイ・プロジェクトに携わっている。

以下は NASA のウェブページ (英語) [I am Artemis: Katherine Cook](#)

また、キャサリン・クック氏の自己紹介メッセージは[こちら](#)。

マンスフィールド財団プログラム参加者の共同編著による日米間の条約等の文書集

横須賀アジア太平洋研究会議 (YCAPS) は、日米同盟に骨格を与える二か国間の条約や合意、政策関連文書をまとめた 2021 年版文書集「[Underwriting the Alliance](#)」を刊行した。本文書集の共同編者はマンスフィールド財団の主要プログラムである[日米次世代パブリック・インテリクチュアル・ネットワーク・プログラム](#)の第 5 期参加者であるジョン・ブラッドフォード氏と[マンスフィールド・フ](#)

[フェローシップ・プログラム](#)第 18 期フェローのマイケル・ボサック氏。希望者は YCAPS のウェブページから PDF 版を無料でダウンロード可。

第 26 期マンスフィールドフェロー紹介(4)

マンスフィールド財団東京事務所では、[マンスフィールド・フェローシップ・プログラム](#)で来年夏に研修開始予定の第 26 期生について紹介しております。今回は、キャサリン・クック氏とコリン・ティーマーマン氏を紹介します。

◆キャサリン・クック 第 26 期マンスフィールドフェロー(2022-2023 年)

米国航空宇宙局 深宇宙探査ゲートウェイ・ロジスティクス・プロジェクト室 運用分析官



深宇宙に人類を送る私の旅は 50 年前に始まり、それはアポロ 11 号の宇宙飛行士、ニール・アームストロングが月面を歩いた 1969 年に最高潮に達しました。日本を含む国際パートナーは、国際宇宙ステーション (ISS) 建設への協力を表明した 1993 年、この旅に加わりました。米国航空宇宙局 (NASA) の一員になるということは、科学的新発見に向けて探求し、私たちのために切り開いてくれた道に敬意を寄せる新世代の家族の一員になるということです。

NASA は今、持続可能な有人宇宙飛行や発見という意欲的な新時代に向け準備をしています。NASA は有人深宇宙探査のための新型ロケット (スペース・ローンチ・システム、SLS ロケット) 及び無人のオリオン宇宙船を建設中です。国際パートナーとともに、月周回軌道において、地表探査を助け、火星へのゲートウェイとなるプラットフォームなどの新しい機会を開発しています。月や火星における有人探査及びロボット探査を可能にさせるため、研究者が最先端の研究や技術開発を行う世界有数の実験室として国際宇宙ステーションは機能し続けるでしょう。

SF映画を見て育った私は、映画の制作者によって創り上げられた様々な形態の惑星間生命体に魅せられてきました。十数年前、私は人類を他の惑星探査に送るという NASA の未来像に興奮し、有人宇宙飛行におけるキャリアを歩み始めました。キャリアの最初の 10 年間、私は SLS ロケットによるオリオン宇宙船の打ち上げプログラムの構築に注力しました。これは探査地上システムプログラムと呼ばれ、人を再び月面上に送り届けることを目的としています。戦略的プランナーとして、打ち上げプログラムの方向性を決める議論を導いてきました。私のキャリアで思い出深いのは、現在打ち上げが計画されているアルテミス計画の初号機 (アルテミス 1) 打ち上げのための

カウントダウン・シミュレーションに参加したことです。NASA のアルテミス 1 の打ち上げチームが打ち上げの日を準備しながら、打ち上げカウントダウンのシナリオを練習する姿を間近で見られたことは、非常に感銘深いものでした。

NASA における最初の 10 年を終え、キャリアの次の 10 年に突入し、現在、ゲートウェイ・プログラムに従事できることを大変嬉しく感じています。ゲートウェイ・プログラムは、今なお素晴らしい成果を出している国際宇宙ステーションに続く NASA の次なる主要な国際パートナーシップを体現するものです。

ゲートウェイ・プログラムの深宇宙探査ロジスティクス・プロジェクトで、私は飛行準備認証 (CoFR) やミッション準備の分析、新しい国内外のパートナーシップ合意の評価など様々な統合的活動を率えています。

深宇宙探査ロジスティクス・プロジェクトは、月面にあるアルテミス・ベース・キャンプ(月面有人活動拠点)における有人探査、そしてさらに火星への旅の拠点とするより長期的かつ持続可能なミッションを実現するために、必要な貨物の再補給や科学の利用を提供するゲートウェイ(月周回有人拠点)のロジスティクス・モジュールを建設し打ち上げを行うものです。現在、国際宇宙ステーションに提供される商業的再補給活動のように、私たちは国際パートナーとともに活動しており、日本は低地球周回軌道からゲートウェイに再補給能力を拡張する分野に関心を表明してきました。

NASA からマンスフィールド・フェローシップ・プログラムに参加する三番目の職員として、先の二人(エミー・ジャクソン氏とマイケル・フレッチャー氏)が行った宇宙探査や技術開発における日米協働への貢献を引き継いでいきたいと思えます。ジャクソン氏が第 1 期マンスフィールドフェローとなった 1995 年は、地球における国際宇宙ステーション建設の国際的協働の始まりの年でした。その 25 年後、月の国際宇宙ステーション、ゲートウェイ計画が開始された時期に私がこのフェローシップに参加することができることを幸運に思います。

この学びの機会を与えてくださった日本政府に感謝いたします。来年、皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

◆コリン・ティーマーマン 第 26 期マンスフィールドフェロー(2022-2023 年)

立法補佐官、ヤング・キム米国連邦下院議員事務所(共和党・カリフォルニア州第 39 選挙区)



初めまして！来夏から始まる研修に先立ち、マンスフィールドフェローの仲間として自己紹介できることを光栄に思います。米日カウンシルや TOMODACHI プログラムに参加、その後下院外交委員会アジア小委員会で働いた私は、米国との同盟国やパートナー、特に日本との関係を強化することでインド太平洋における外交及び安全保障の両国の取り組みを向上させるイニシアチブを追求してきました。

米国連邦議会下院外交委員会での数年間の経験は、私に貴重な教訓、特に議会が行政機関と比べて外交における役割をどのように果たしているのかを教えてくださいました。具体的には、立法機関は典型的に国内にその関心を向ける一方、米国の国際問題における国家的見地に立った優先順位付けや重要な使命に対する合理的な資金配分、また米国の海外での活動に対しての重要な監査の実施など、議会の活動には計り知れない価値があることを確認出来ました。

近年の出来事は、多くの人々が持つアメリカの軍事力や外交的影響力への認識を揺るがしました。自身の経験を通して、議会で働いているスタッフは、米国の同盟国やパートナーへのコミットメントを再確認し、かつ敵に対して米国の防衛力の挺入れを行うことで、この方向性を正す知識、機会、意志の力を持つ人たちであることを教わりました。同盟国である日本・韓国・台湾との関係を強化しつつ中国の脅威へ対抗する中での米国支援、米国のアフガニスタン戦略の修正及び協力者の避難、世界的変化に対応するため国防総省や国務省へのより効果的なイニシアチブについて、引き続き取り組んでいきたいと思います。マンスフィールド・フェローシップの研修期間中に、どうしたら米国がよりよい同盟国になれるのか、防衛省、外務省、国会と効果的に協調するにはどのようにすべきなのか日本のカウンターパートから学ぶことを楽しみにしています。

アメリカは孤立していない時が最も強く、外交政策が政府の各省庁内で調整され理解されている時が最も巧みです。マンスフィールド・フェローシップ・プログラムへの参加によって、米国議会が今以上に日米同盟に関与する挺入れをし、両国のパートナーシップがさらに前進するような関係を築くために必要な見識を共有できるようになることを願っています。

Maureen and Mike Mansfield Foundation Monthly Newsletter

September 30, 2021

Mansfield Fellowship Program 25th Class UPDATE: Fellowship Starts ([Mansfield Fellowship Program](#))

The placements of the 25th Mansfield Fellows at the host agencies finally started on September 6 after the one-year delay! Please see [here](#) for the list of host agencies that are scheduled to receive the fellows for the fellowship till June 2022.

Also see the webpage of the National Personnel Agency (NPA) that introduces the Mansfield Fellowship Program [here](#).

Mansfield-PhRMA Research Scholars Program's 5th Online Seminar Held

On September 9, the Mansfield Foundation held the 5th online seminar for alumni participants of the Mansfield-PhRMA Research Scholars Program, which the Mansfield Foundation implements, supported by the Pharmaceutical Research and Manufacturers of America (PhRMA). In this seminar, [Dr. Rajiv N. Rimal](#), Chair of the Department of Health, Behavior, and Society, Bloomberg School of Public Health, who was invited as a guest speaker, talked about effective pandemic responses. The topic was very timely and gave suggestions for the current situation where COVID-19 is widespread across the country.

Please see further details on the program [here](#).

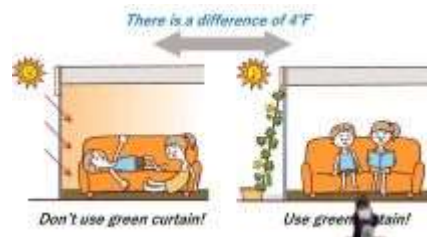
Webinar Series for the 26th Mansfield Fellows Starts

On September 13, the D.C. Headquarters of the Mansfield Foundation held a webinar for the 26th Mansfield Fellows who will come to Japan in the summer 2022. Professor Gerald Curtis, Burgess Professor Emeritus of Political Science, Columbia University and Chair of the Mansfield Foundation's Board of Directors, was the speaker this time and spoke on Japanese politics, taking up timely topics such as LDP's presidential election and the Lower House general election.

KAKEHASHI Project: Virtual Exchange Program on Climate Change between U.S. and Japanese High School Students Held

[The Japan International Cooperation Center \(JICE\)](#), the implementing agency of [KAKEHASHI Project \(Japan's Friendship Ties Programs\)](#) that the Mansfield Foundation began serving as an administrative agent in 2016, entrusted by the Ministry of Foreign Affairs, held a virtual exchange program for U.S. and Japanese high school students to interact under the theme of climate change and environment on September 13. The aim was to provide them with an opportunity to learn about the environmental awareness and activities of high school students in the U.S. and

Japan, and to think about the importance of international cooperation across borders. Japanese students from Toho High School, Aichi, made a presentation on their activity Eco Action while U.S. students from Helena High School, Montana, introduced their Green Group activities. In the Q&A session, both students exchanged questions such as what good thing they practice for climate change once a day and what sports they do at school in an amicable atmosphere. It is planned to invite the Helena High School students to Japan once the COVID-19 outbreak is over. The Mansfield Foundation is pleased to know Helena High School was selected for the KAKEHASHI Project since Montana is the hometown of the [late Ambassador Mike Mansfield](#). MOFA webpage for [KAKEHASHI Project](#)



Other Mansfield Foundation-Related News

26th Mansfield Fellow, Katherine Cook Introduced in NASA Webpage

One of the 26th Mansfield Fellows who will come to Japan next summer, Katherine Cook, currently working at the National Aeronautics and Space Administration (NASA), was introduced on a NASA webpage. She is engaged in the Gateway Program's Deep Space Logistics (DSL) Project at NASA's Kennedy Space Center as Operations Analyst.

See NASA's webpage: [I am Artemis: Katherine Cook](#)

Also see for her introductory message [here](#).

***Underwriting the Alliance* (YCAPS) Co-edited by Mansfield Programs' Participants**

Yokosuka Council on Asia-Pacific Studies (YCAPS) published an annotated collection of the key bilateral treaties, agreements, and policy documents that provide the structure of the U.S.-Japan Alliance "[Underwriting the Alliance](#) (2021 Edition)". This collection is co-edited by two participants of the Mansfield Foundation's major programs, **John Bradford**, a scholar of the 5th cohort of the [U.S.-Japan Network for the Future Program](#), and **Michael Bosack**, a fellow of the 18 class of the [Mansfield Fellowship Program](#). The volume can be downloaded from the YCAPSS webpage.

Introduction of Mansfield Fellows from the 26th Class (4)

This month, the Mansfield Foundation Tokyo Office introduces Katherine Cook and Colin Timmerman from the 26th class of the [Mike Mansfield Fellowship Program](#), who are scheduled to start the fellowship program in summer 2022.

◆Katherine Cook, MFP 26 (2022-2023)

Operations Analyst, Gateway Deep Space Logistics Project Office, National Aeronautics and Space Administration



My journey sending men and women to deep space started 5 decades ago, culminating in the pivotal moment in 1969 when Apollo 11 astronaut Neil Armstrong walked on the Moon.

International Partners, including Japan, joined together in 1993, when they announced a cooperation to build the International Space Station. Being part of NASA means being a part of a family, with each new generation endeavoring toward new scientific discoveries and honoring the path carved for us.

NASA is now preparing for an ambitious new era of sustainable human spaceflight and discovery. The agency is building the Space Launch System rocket and the Orion spacecraft for human deep space exploration. Together, international partners will develop new opportunities in lunar

orbit, including a platform to aid surface exploration and serve as a gateway to Mars. The International Space Station will continue to serve as the world's leading laboratory where researchers can conduct cutting-edge research and technology development to enable human and robotic exploration of the Moon and Mars.

Growing up watching science fiction movies, I was inspired by different visions of multi-planetary living dreamed up by movie producers. Over a dozen years ago, I began my career in Human Spaceflight, enthusiastic about NASA's vision of launching men and women to explore other planets. The first decade of my career focused on building the launch program for the Space Launch System rocket and Orion spacecraft, named the Explorations Ground Systems Program, which endeavor to send humans to the moon to walk it once again. As a strategic planner, I led discussions that shaped the course of the launch program. One career highlight was attending a Launch Countdown Simulation for the upcoming Artemis I launch. It was incredibly inspiring to observe NASA's Artemis I launch team practice launch countdown scenarios, readying for launch day.

Now, into my second decade with NASA, I am excited to work on the Gateway Program. The Gateway Program represents NASA's next flagship international partnership, following the tremendous accomplishments that continue today on the International Space Station.

For Gateway's Deep Space Logistics Project, I lead various integration activities including planning Certification of Flight Readiness, analysis of mission readiness, and assessments of new domestic and international partnership agreements.

The Deep Space Logistics Project will build and launch Gateway's Logistics Module to provide necessary resupply of cargo and science utilization, enabling longer missions, sustainable human exploration of the lunar surface, Artemis Base Camp, and journeys onto Mars. Like the commercial resupply provided today to the International Space Station, we work with International partners. Japan has expressed interest in expanding their resupply capabilities in low earth orbit out to the Gateway.

As the third NASA employee to participate in the Mansfield Fellowship, I hope to continue my predecessors' (Amy Jackson and Michael Fletcher) contribution to U.S. and Japan collaborations in space exploration and technology development. As a member of the first cohort, in 1995, Ms. Jackson's fellowship coincided with the beginning of the Earth's International Space Station collaboration. And, just over 25 years later, I am fortunate to participate during the beginning of the Moon's International Space Station, Gateway.

Thank you to the Government of Japan for providing opportunities for me to learn. I look forward to meeting you next year.

◆ **Colin Timmerman, MFP26(2022–2023)**

Legislative Assistant, Congresswoman Young Kim (CA–39)



初めまして！(Hajimemashite!) It's an honor to introduce myself to the Mansfield Fellowship family ahead of my deployment next summer. From participating in U.S.–Japan Council and TOMODACHI programs to working with the House Asia Subcommittee on Foreign Affairs, my career has been spent pursuing initiatives that improve our diplomatic and security posture in the Indo–Pacific by strengthening our relationships with our allies and partners, especially Japan.

Working on the Hill over the years has taught me invaluable lessons, especially on how Congress asserts its role in foreign affairs compared to the Executive Branch. While the purview of the Legislative Branch is typically focused on domestic concerns, my experience in the House Foreign Affairs Committee has demonstrated that there is immense value in Congress setting our national priorities in international affairs, sensibly appropriating funds for critical missions, and conducting important oversight on our overseas operations.

Recent events have shaken many perceptions of American military might and diplomatic influence. My experience has taught me that congressional staffers have the knowledge, opportunity, and willpower to correct this trajectory by reaffirming our commitments to our allies and partners and shoring up our defenses against our adversaries. I continue to work on initiatives that would assist our country in countering threats from China, strengthening our alliances with Japan, South Korea, and Taiwan, revise our Afghanistan strategy and evacuate our partners, and more effectively leverage the Departments of Defense and State to respond to global challenges. During my fellowship, I look forward to listening to our Japanese counterparts on how the U.S. can be a better ally and more effectively work with the Ministry of Defense, Ministry of Foreign Affairs, and the National Diet.

America is at its strongest when it is not alone, and most deliberate when its foreign policy is coordinated and understood in all branches of government. I hope that my participation in the Mansfield Fellowship can provide the insight necessary to better leverage U.S. congressional

involvement in the U.S.-Japan alliance and forge relationships that will move our partnership forward.

[モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団 日本語ホームページ](#)



THE MAUREEN AND
MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations

- [Facebook](#)
- [Twitter](#)
- [Email](#)
- [Support](#)